

# 使う、親しむ、身に付く英語の指導

## －選択教科における単元の計画と授業の工夫－

田原本町立北中学校 教諭 大村 泰弘  
Omura Yasuhiro

### 要 旨

中学校学習指導要領の目標に、実践的コミュニケーション能力の育成を図ることが大きく掲げられている。本校では週3時間の英語の授業に加え、1時間の選択英語の授業を実施をしているが、その中で、海外旅行のシミュレーションを通して、実践的コミュニケーションの育成を図るための研究を行った。

キーワード： 実践的コミュニケーション能力，海外旅行，シミュレーション

### 1 はじめに

シンガポール日本人学校で勤務した3年間で、最も印象に残ったことは、日本人の英語によるコミュニケーション能力や英語教育の熱意が他の国々よりも劣っていることであった。東南アジア諸国の英語教育は、日本のように必ずしも全ての子供に均等に行き届いているわけではありませんが、教育する側も受ける側も英語に対するエネルギーは底知れぬものがあると痛感した。またシンガポールに来られた文部省の方が「空港で見かけたのですが、旗のあとについて行かないと旅行もできないのは日本人ですね。悲しいことにその中には若い方もおられる。ちょうどあなた方の教え子で、ALTとの授業も経験したはずの年齢の人だ。しかし現実はどうですか。」と言われた。私は自分への反省をするとともに、恥ずかしい思いをした。しかし、私たちは英語を第二言語として学習している国々の人と比べ、決してボキャブラリーや英語能力が極端に低いわけではない。学業を終えた後、英語の必要性に迫られなかったり、学生時代に聞く・話すといった学習をあまり経験してこなかったりしたことがコミュニケーション能力を伸ばしきれない原因の一つと思われる。そこで、シンガポール日本人学校での勤務経験を生かして、英語の聞く・話す能力を生徒に充実させる授業の在り方について研究をした。

### 2 研究目的

将来生徒の多くが経験するであろう海外旅行の場面を設定し、シミュレーションをさせることにより、そのシチュエーションに合った基本会話ができるとともに、自分の意志を英語で相手に告げることのできる能力を付けさせる。また、コンピュータや情報通信ネットワークなども活用した研究を行う。

### 3 研究方法

- (1) これまでの英語授業の問題点の分析
- (2) 本年度の選択授業の進め方の研究
- (3) 新しい授業形態についての研究

- (4) 本校の生徒の実態の把握とそれに合った指導方法の開発
- (5) 本年度の年間指導計画の作成について
- (6) 研究授業の実施と課題の分析

#### 4 研究内容

- (1) これまでの授業の問題点の分析
  - ア 積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲や態度の育成が十分でなかった。
  - イ 文法の説明や writing の練習に時間をかけすぎた。
  - ウ Classroom English や指示英語、英語での授業や説明が少なすぎた。
  - エ 英語を聞かせること、英語で発話させることが少なすぎた。
  - オ 生徒が積極的に参加できるコミュニケーション活動の工夫が足りなかった。以上のように、教員にとって教えやすい「読むこと」・「書くこと」に中心がおかれていたため、英語を「聞くこと」、「話すこと」の能力の育成が不十分であった。
- (2) 本年度の選択授業について  
本年度、3年生には生徒自らコースを選択させ、それぞれの目標を達成させる形態をとっており、その4つのコースのうちの1つを英語に当てている。
- (3) 選択授業の授業形態  
オーラルコミュニケーションの授業をより意義深いものにするには、生徒数は少なければ少ないほど有効であると考え。教員と生徒たちの英語での会話の時間が増えるからである。そこで、本校では3年前から学年により少人数での授業を実施している。また、各学年の選択英語では週3時間の授業でやりきれなかったことをオーラルコミュニケーションを中心にALTと一緒にやっている。
  - ア 選択授業以外の英語の授業（週3回）では、3年前から始めている少人数クラスを本年度も1年生で継続し、英語の授業をスタートした時点での発話の習慣を定着させるようにしている。
  - イ 1、2年生では発話の習慣を確実なものにするためにALTとのティームティーチングを中心に選択授業を行っている。
  - ウ 本年度、3年生ではア・イの1、2年生での成果を生かすため、基本会話と応用会話の2つにコースを分け生徒に選択させている。
- (4) 本校の生徒の実態にあった指導方法の開発  
現第3学年は、第1学年から少人数クラスを実施してきた学年であり、常に1クラス15名ほどの中で英語の学習をすることができた。そのため授業中での発言回数も40人学級の場合に比べはるかに多かった。一人一人の英語の発話が多くとれたことにより、3年生になっても英語による説明や質問に対してもほとんどの生徒が困難を感じることなく聞き取ったり、積極的に答えようとしている。そこで、私が研究を進めるコースでは、生徒たちに更にコミュニケーション能力を付けさせるため、2学期で行うそれぞれの単元の授業の最後には、必ずその日に習ったフレーズを使い自分の力でトラブルを乗り越えるよう課題を与えた。（例 レンタカーを借りるときの練習では：「日本で予約を入れたはずが相手の会社にはその内容が届いていません。そのときあなたならどう切り抜けますか？英語で言ってみましょう。」など）また、ほとんどの生徒にとって外国は未知の世界であり、そのような世界で起こりうるそれぞれのテーマの状況をより正確に把握させるため、ビデオや写真などを積極的に取り入れることを心がけた。（それらのビデオや写真は海外生活中に自分が撮影したものが中心で、その他にNHK 教育テレビの英会話番組を録画したも

のを使用した。)

(5) 本年度の年間計画について

〈外国旅行のはじめから終わりまで〉

ア 本課

(ア) 年間と学期の目標

◎年間目標

- a. 海外旅行で最低限必要な英会話力を身に付ける。
- b. 世界に一つだけの自分の旅行プランを作成することにより、英語に親しむ。
- c. IT教育ともリンクし、国内はもとより国外の情報も収集することにより、英語力を高めるだけでなく国際感覚も身につける。

○1学期の目標

- a. インターネットを通して、英語圏の国のサイトから情報を読み取り、その中から必要なものを取捨選択することができる。
- b. インターネットを使うことにより英語に対する興味・関心を広げる。
- c. 生徒が自分自身の旅行プランを立てる。

○2学期の目標

- a. 英語に親しみ、生きた英語にふれる。
- b. それぞれのSituationに応じた Basic Dialogueをマスターする。
- c. Basic Dialogue を基にいろいろな状況に遭遇しても自分の英語力で切り抜ける力を付ける。

○3学期の目標

- a. 1・2学期に（定着させることができなかった）ことを復習する。
- b. 1・2学期に学習したことを基に更に応用力を付ける。

(イ) 本課の目標

- a. 英語に親しみ、実際の海外旅行で実践できる英語を身に付ける。
- b. それぞれのSituationに応じた Basic Dialogueを確実にマスターする。
- c. 海外旅行では基本会話が分かっている、必ずしもその状況や会話内容がお決まりのパターンになるとは限らない。そこでBasic Dialogueを基に、いろいろな状況に遭遇しても自分の英語力で切り抜ける力を付ける。

(ウ) 本課の評価基準

ア 関心・意欲・態度	イ 表現の能力	ウ 理解の能力	エ 知識・理解
(言語活動への取組) ①学習した英語表現を使い、積極的にはきはきとやり取りしている。 ②ペアワークなどの活動で必要に応じて協力し合っている。	(正確な音読) ①正しい発音、抑揚で会話ができる。 ② Basic Dialogue を正確な発音、抑揚で演じることができる。 (適切な発話) ③たずねられたことに対して適切に回答することができる。 (正確な筆記) ④ 出入国カードや税関申告カードを正確に記入できている。	(正確な聞き取り) ① JTE と ALT のショートダイアログを聞き取ることができる。 ② JTE や ALT の質問を理解し、適切に回答することができる。 (正確な読み取り) ③ レストランのメニューが正確に読み取れる。	(言語の知識) ①それぞれの状況に応ける基本的な Basic Dialogue を身に付けている。

	⑤ 日本に送る郵便物の手続きが正確にできている。	
--	--------------------------	--

(6) 研究授業の計画、実施、課題

ア Teaching Plan

1. Date: The 4<sup>th</sup> Period (11:50 ~ 12:40), Tuesday, October 26, 2004
2. Class: Elective English Class, Grade-3, Tawaramoto North Lower Secondary School
3. Teaching Aids: Worksheets, Passport, Customs Declaration Card, Immigration Card
4. Allotment of This Lesson "Let's Go Travel!"
  - 1<sup>st</sup>. Period: At the immigration (This Period)
  - 2<sup>nd</sup>. Period: How to rent a car
  - 3<sup>rd</sup>. Period: From the airport to the hotel
  - 4<sup>th</sup>. Period: Checking in and out at a hotel Some troubles at a hotel
  - 5<sup>th</sup>. Period: Making a reservation at the restaurant
  - 6<sup>th</sup>. Period: Transportation
  - 7<sup>th</sup>. Period: Asking the way
  - 8<sup>th</sup>. Period: Shopping
  - 9<sup>th</sup>. Period: International phone At the post office
  - 10<sup>th</sup>. Period: At the hospital
5. Objective of This Period
  - ① To have the Ss understand the way of entry formalities.
  - ② To have the Ss communicate at the immigration.

6. Evaluation Criterion

Satisfactory	Not Satisfactory
The Ss can answer questions of the officer at immigration. (Teachers check one by one if they can answer these three questions smoothly or not.) ・ What's the purpose of your visit? ・ What is your occupation? ・ Do you have anything to declare?	Encourage the Ss and help them when they practice with each other.  Encourage the Ss and advise them to look at the sheet.

7. Teaching Procedure

Procedure (min)	Students' Activities	Teachers' Activities and <i>Points to Pay Attention during Instruction</i>	Perspectives of Evaluation Evaluation Criterion
Greeting (2min.)	Ss answer to the teacher's question.	Ask some Ss "How are you?" <i>To make a relaxed atmosphere in class.</i>	
Warm Up (15 min.)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Listen to the teachers' explanation.</li> <li>・ Watch video and catch the atmosphere at the airport.</li> <li>・ Listen to the teachers' dialogue and understand the content of this dialogue.</li> <li>・ To write about the content of teachers' dialogue.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <i>To explain the structure of the airport. (using big sheet)</i></li> <li>・ To show video tape of the scene of at the airport.</li> <li>・ Teachers read a short dialogue.</li> <li>・ Teachers ask the Ss the content of</li> </ul>	ウの①

		<p>this dialogue in Japanese.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• To give the sheet (in English).</li> <li>• To give the sheet (in Japanese), and then let the Ss understand the content.</li> </ul>	
<p>Activity (30 min.)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• A chorus reading after ALT.</li> <li>• Practice the dialogue with each other. (Pair Work) (Ss who read the officer part can look at the English sheet)</li> <li>• Ss have to pass immigration</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>To help Ss read difficult words.</i></li> <li>• <i>To help and advise so that they can pronounce correctly. (Walk around to observe and look at Ss during this)</i></li> <li>• Teachers play an officer part and evaluate students.</li> <li>• <i>Help the Ss who can't answer officer's question. (Instruct them to see their work sheet.)</i></li> </ul>	イの③
<p>Closing (3 min.)</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>• To tell about next lesson.</li> </ul>	

<b>Work Sheet (For teachers)</b>	
Officer:	Next, please. May I see your passport?
Passenger:	Here you are.
Officer:	Thank you. <b><i>What's the purpose of your visit?</i></b>
Passenger:	Sightseeing. / Business.
Officer:	① How long are you going to stay?
Passenger:	For ten days.
Officer:	② Where are you going?
Passenger:	Los. Angeles, San Francisco, and Las Vegas.
Officer:	③ Where are you going to stay?
Passenger:	At Washington Hotel in L.A.
Officer:	<b><i>What is your occupation?</i></b>
Passenger:	I'm a student. / I work in computers.
Officer:	④ Do you have a return ticket?
Passenger:	Yes, I do. Here you are.
Officer:	<b><i>Do you have anything to declare?</i></b>
Passenger:	Nothing.
Officer:	Thank you. Have a nice trip.
Passenger:	Thank you.

#### イ 研究授業の実施と課題

本時のねらいは、海外旅行で外国の空港のイミグレーションにおいて、英語で対応できることである。特に上記ワークシートの太字イタリック体の質問事項に答えることに重点をおいた。コーラスリーディング、ペアワークのあと、教員が入国管理官になり、目標である4つの質問と既習事項である①～④の質問をいくつか行ったところ、ほぼ全員の生徒が対応することができたと考える。また、各時間にはその時間内に学習したフレーズを用い、実際の旅行において起こるか

もしもないトラブルの課題を与え対処方法を考えさせるのだが、今回は全員に課題を与えることができなかった。しかし、生徒によっては入国管理官役の教員との会話の中で、その後の応答を自分で考え対処しなければならないことも起こった。それは、滞在期間を「永住」と答えた場合や、「帰りの航空チケットを持っていない」、「航空チケットを紛失した」等の基本ダイアログにない答え方をした場合などであるが、それらの生徒たちには、その場面に対し英語で適切に答えようとする意欲や態度が見られた。また、本時の目標を達成できたかをチェックするには、今回のように生徒一人一人に対し英語でやり取りをし評価する方法が望ましいと考える。本時には、オブザーバーの先生方にも管理官の役をしてもらうなどの協力を得ることができ、時間内で終了することができたが、soloの授業時にはどのように生徒の目標達成を確かめればよいかという課題も残った。解決策としてシートに書かせることも一つの方法だが、それではオーラルコミュニケーションの力が付いたかどうかは分からないので次時に口頭でのチェックを行った方がよいのではと考える。

## 7 研究のまとめ

生徒に実践的コミュニケーション能力を付ける指導法として、興味・関心を高めるためのシチュエーションを設定するため教科書から離れた内容で研究を行ってきた。そのことにより、既習事項をベースに自分の意志を伝えようとする姿勢が養われてきたように思う。生徒の選択授業に対する感想（下記）の(4)(5)にもあるように、何とかして相手に自分の意志を伝えようとする気持ちと実行力が付いた。また、授業外でも英語教員に対して **How are you?** などと英語で話しかけてくるようになり、ネイティブに対しても積極的に明るくコミュニケーションがとれ、昼休みには校庭でALTと楽しく会話している光景も見られるようになった。そして、次へのステップとして、正確な発音や文法を使って対応できる英語力を生徒たちにもっと身に付けさせていきたいと考えている。

### <生徒の選択授業への感想>

- (1) 海外旅行はバックで行くものと思っていたが、自分の力でしかも自由な旅行ができると分かった。
- (2) インターネットを使えば、日本語でも英語でも座っていて全て予約もできるし、遠くにある目的地の内容を知ることができると分かった。
- (3) 自分で計画を立て英語を話すことができれば半分の料金でしかも自由な旅行ができると分かった。
- (4) どう言ったらいいのかわからない内容でも、遠まわしに説明すれば理解してもらえると分かった。しかも、中学校で習う表現で十分だと分かった。
- (5) 毎回授業の最後には決まった言い方でなく、課題を与えられ自分でトラブルを乗り切らなくてはならないのはいやだったけど、一生懸命話してALTの先生が分かってくれたときは、とてもうれしかった。実際海外旅行に行っても「自分で対処できる」と自信が付いた。
- (6) 選択授業で行った内容を大切にファイルしておきます。トラベル英会話の本は売っていてもインターネットを使用しての旅行の調べ方までは載っていないだろうし、授業で学習したように詳しくはないと思う。

## 参考・引用文献

- |                             |       |     |
|-----------------------------|-------|-----|
| (1) 文部省 中学校学習指導要綱 解説 一外国語編一 | 東京書籍  | 平11 |
| (2) これで充分トラベル英会話            | 日本文芸社 | 平13 |
| (3) セイン・カミュのトラベル英会話         | 日本文芸社 | 平14 |
| (4) もって歩く英会話BOOK            | 西東社   | 平15 |